

新 PATIENTVIEW ツールキット： 「製薬会社、ESG、患者団体」

プレスリリースの解禁日時

2025年2月28日（金） 午前6時 GMT

お問い合わせ: Alex Wyke

電話: +44-(0)-7960-855-019

メール: report@patient-view.com

2025年2月28日 ロンドン

2025年、欧州連合は「ダブル・マテリアリティ評価（DMA）」と呼ばれる必須条件を導入し、ステークホルダーに対する企業の ESG [環境・社会・ガバナンス]¹の影響を測定して報告することを企業に義務付けました。他の国々（オーストラリア、カナダ、日本、シンガポール、イギリスを含む）もこの動きに追随し、同様の法的要件を採用する可能性があります。²

患者および患者団体は、製薬会社にとって重要なステークホルダーです。そこで、検討する必要があるのは、製薬会社が自社の ESG 活動を評価する際に、どのように患者団体の認識を考慮することができるのかということです。この点に対応するために、PatientView は、製薬会社による患者（および患者を代表する患者団体）への ESG 影響の測定の定義と標準化に役立つ新ツールキットを作成しました。

PatientView の新 ESG ツールキットについて

PatientView が、製薬会社の ESG 活動に対する患者の視点を評価する調査を開始してから、今年で3年目になります。この最新ツールキットは、以下による ESG の実践状況に関する患者の見解を初めて定量化できるようにすることを目的としています。

a.) 製薬業界全体

b.) 現在詳細な ESG アジェンダを掲げている「大手製薬会社」15社³（大手以外の一部の製薬会社も積極的に ESG 領域の活動を行っています）。

PatientView では本ツールキットの作成前に、以前実施した調査結果をエビデンスとして使用し、複数の製薬会社の意見を取り入れて患者団体向けのアンケートを作成しました。2024年10月～11月にこのアンケート調査を実施し、世界74か国、201専門分野の701の患者団体から回答を収集しました。

その結果、ESG に対する企業の優先事項に関して患者団体からの洞察を取得し、患者の視点から見た製薬会社の ESG の有効性を測定するための8つの指標を策定しました。これら8つの指標は、製薬会社が患者達に与える影響の測定方法を定義し、標準化するための一助となるはずです。

ここでは以下の大手製薬会社15社を評価しました。

- アッヴィ・アムジェン・アストラゼネカ
- ベーリンガーインゲルハイム・ブリストルマイヤーズ スクイブ
- イーライリリー・ギリアドサイエンシズ・GSK
- J&J イノベティブメディスン（旧社名ヤンセン）
- メルク アンドカンパニー/MSD・ノバルティス・ファイザー
- ロシュ/ジェネンテック/中外・サノフィ・武田。

¹ESG（環境・社会・ガバナンス）とは、企業が投資を決める際に持続可能性に関する問題を考慮することを促すために、国連によって2004年に初めて使われた用語です。以降、投資家が ESG の価値観に合わせてポートフォリオを構成するための手段として、「社会的責任投資（SRI）」という概念が登場し、製薬会社を含む多くの企業が社内で ESG 戦略を採用するようになってきました。

² <https://www.sustainalytics.com/esg-research/resource/investors-esg-blog/get-ready-to-hear-the-term-double-materiality-what-it-means-for-investors>

³ この PatientView ツールキットの分析に含まれているのは「大手製薬会社」15社のみですが、回答した患者団体は、他の製薬会社25社の ESG 戦略の有効性についても言及しています。他の25社は以下のとおりです。

• アステラス製薬・バイエル・バイオジェン・バイオマリン・キエジファーマ・CSL ベーリング・第一三共・エーザイ・グリュネンタル・イブセン・レオファーマ・ルンドベック・メナリーニ・メルク KGaA/EMD セローノ・ノボルディスク・オクタファルマ・大塚・ピエールファープル・PTC セラビューティクス・サレプタ・セルヴィエ・Sobi・UCB・パーテックス・ヴァーブヘルスケア。自社のスコアと順位に関する情報をお求めの場合は、PatientView (report@patient-view.com) までご連絡ください。各社の結果をお知らせします。

PatientView、プレスリリース、2025年2月28日、6am GMT まで発表禁止

主要な調査結果

■製薬業界全体

- ▶ 様々な患者団体における ESG に対する関心の高まり。701 の回答患者団体は、ESG に関心を持ち、自発的にアンケートに参加した団体です。この PatientView ESG 調査には多数の（および多様な）患者団体が参加していることから、ESG というトピックが多くの患者団体全般にとって重要であることが伺われます [701 の回答患者団体の分析結果については、プレスリリースの最後を参照してください]。
- ▶ しかしアメリカは特殊なケースです。西ヨーロッパとアメリカでは、ESG の整合性に対する姿勢ははっきりと異なり、今回の ESG のアンケート調査に回答した米国の患者団体数は、他の通常の PatientView 調査に比べて低くなっています。米国では最近、反 ESG 感情が高まっています⁴。
- ▶ 701 の回答患者団体の大部分は、各団体にとって 3 つの全分野（E、S、G）が重要であると回答しており、中でも特に最も重要な領域は、製薬会社が社会に与える影響としています。回答した患者団体の半数以上は、製薬会社との提携を決定する際に製薬会社の ESG 活動を「必ず」または「時々」考慮に入れると回答しています。

貴患者団体にとって、以下の点ほどの程度重要ですか？（2024 年）

全回答に占める割合

		重要	重要ではないが今後重要になるかもしれない	重要ではない	該当しない	分からない
E	製薬会社が環境に与える影響	67%	18%	4%	7%	5%
S	製薬会社が社会に与える影響	94%	3%	1%	1%	2%
G	製薬会社のコーポレートガバナンス基準	88%	5%	2%	1%	3%

貴組織と提携する製薬会社を選ぶ際に、以下のいずれかを考慮しますか？（2024 年）

全回答に占める割合

		必ず考慮する	時々考慮する	考慮しないが、今後は考慮する予定	考慮しない	該当しない	製薬会社とは提携していない	分からない
E	環境保護に対する企業の取り組み	30%	28%	8%	13%	9%	5%	7%
S	社会または社会全体の問題に対する企業の取り組み	62%	21%	3%	4%	3%	5%	4%
G	効果的なコーポレートガバナンスの確保	52%	21%	4%	7%	5%	5%	7%

⁴ <https://www.eiu.com/n/anti-esg-sentiment-in-the-us-weakens-esg-markets/>

■製薬会社各社

回答した患者団体には、8つの指標により調査対象の「大手製薬会社」15社を評価していただきました。



指標 1:

コミュニケーション
患者団体に対して ESG 活動について伝えることに「最も優れている」企業（企業ウェブサイトで ESG 報告書を公表する以外の方法）。



指標 2:

患者に対する説明責任
ESG 問題に関する患者や患者団体の意見に耳を傾けることに「最も優れている」企業。



指標 3:

患者とのエンゲージメント
ESG 戦略に患者団体の ESG 見解を取り入れることに「最も優れている」企業。



指標 4:

患者団体の支援
自社の ESG 活動で患者団体を支援することに「最も優れている」企業。



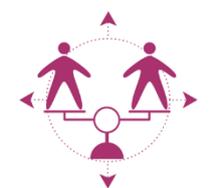
指標 5:

目的の公的な明確性
ESG 目標を患者、患者団体、一般大衆に伝えることに「最も優れている」企業。



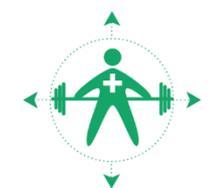
指標 6:

透明性を持った報告
ESG 目標に対する実績を患者、患者団体、一般大衆に伝えることに「最も優れている」企業。



指標 7:

公平性とアクセス
患者団体の国々における健康格差への対応に「最も優れている」企業（初期の研究開発から患者による医薬品のへのアクセスまで）。



指標 8:

医療システムの強化
患者団体の国々の医療システムを ESG 活動によって強化することに「最も優れている」企業。

PatientView は、各企業に関して 2 組の結果を提供します。

- 1.各社について認識している回答患者団体の評価に基づく、8つの ESG 指標ごとの 15 社の順位（および各社の全体的な「認識度」の順位）。
- 2.各社と提携している回答患者団体の評価に基づく、8つの ESG 指標ごとの 15 社の順位（および各社の全体的な「提携度」の順位）。

<p>注： 小数点以下 3 桁までのスコアが高い順の順位。 アストラゼネカにはアレクシオンも含まれます。 ヤンセンは 2023 年後半にジョンソンエンドジョンソンイノベーティブメディスン (J&JIM) に社名を変更しました。 ロシュは米国ではジェネンテック、日本では中外製薬として活動しています。</p>	<p>「大手製薬会社」の中で、患者の視点から見て ESG に「最も優れている」上位 3 社の総合順位 (2024 年) (全 15 社中) - 各社について認識している回答患者団体による評価：</p> <p>→1 位 ロシュ</p> <p>→2 位 ギリアドサイエンシズ</p> <p>→3 位 ジョンソンエンドジョンソンイノベーティブメディスン (J&JIM)</p>	<p>「大手製薬会社」の中で、患者の視点から見て ESG に「最も優れている」上位 3 社の総合順位 (2024 年) (全 15 社中) - 各社と提携している回答患者団体による評価：</p> <p>→1 位 ギリアドサイエンシズ</p> <p>→2 位 ロシュ</p> <p>→3 位 アストラゼネカ</p>
---	---	--

■製薬会社は ESG に関する患者団体とのエンゲージメントをどのように改善できるか

製薬会社は ESG 基準に概ね準拠しているようです。しかし、患者や患者団体というステークホルダーが企業の ESG 活動から個人的な利益を見出さない限り、ステークホルダーが企業の ESG 活動を好評価することはないかもしれません。

製薬会社の多くは（もちろんすべてではなく）、患者団体との交流において自社の治療薬のみに焦点を当てます。しかし患者団体は、医療やパスウェイに対する患者のアクセス改善、企業が提供するサービスの質の向上、健康格差への対応などにおいて、すべての製薬会社とその権限を拡大すべきだと引き続き考えています⁵。これらの領域は、企業の ESG 活動目標がどうあるべきかという患者団体の理解を反映しています。

PatientView ESG アンケート調査に回答した 701 の患者団体のうち 368 の団体から、製薬会社の ESG 活動により効果的に関与するために患者団体が製薬会社に求めるサポートの種類について、424 のコメントと優先事項が寄せられました。これらのコメントをツールキットでテーマ別に分析した結果、2つの明確な活動領域に分類されました【この後にコメント例を示しています】。

製薬会社による介入が必要 全コメントにおける比率 (%)	
I. ESG の領域で製薬会社と患者団体の関係を発展させる	43%
関係の構築と維持	10%
より緊密な連絡体制の構築	24%
関連施策の共同設計	9%
II. 患者団体に対する製薬会社の ESG アジェンダの重要性	54%
実践的行為の実演	31%
的を絞った明確なコミュニケーション	17%
治療と医療へのフォーカス	6%

製薬会社による ESG の実践状況についてコメントした 368 の患者団体の一部（14 団体）は、製薬会社の ESG トピックが自身の団体（あるいは各団体が支援する患者コミュニティ）には関連しないと感じており、「原則から外れている」、「患者団体のリソース不足」または「患者団体が製薬会社と提携していない」などがその理由としてあげられています。

⁵Patients in Action、パート II、PatientView、2024 年 10 月

<p>透明な双方向コミュニケーションと効果的なエンゲージメントの実現</p>	<p>「多発性硬化症に取り組む製薬会社には、以下の要素が不可欠です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 透明性 - ESG への取り組みと患者に対するその影響を明確に伝える。 2) 教育 - ワークショップや教材を通じて、病気や持続可能な実践手順に関する情報を提供する。 3) 対話 - 治療や持続可能性に関する患者の懸念に耳を傾けるための機会を持つ。 4) コラボレーション - 患者支援団体と協力し、患者支援団体のニーズをより理解する。」 <p>全国多発性硬化症患者団体 (ブラジル)</p>
<p>ESG における患者団体の活動の認識</p>	<p>「当団体は ESG にとってもよく通じています。その証拠として、当団体の活動を評価した ESG 格付証明書を取得しています。持続可能性に向けた私たちの努力を評価に盛り込み、他の団体と比較することをアドバイスします。」</p> <p>全国リウマチ筋骨格系疾患患者団体 (スペイン)</p>
<p>各地の医療環境の改善</p>	<p>「製薬会社は、戦略に社会的責任、持続可能性、患者中心の医療を取り入れ、患者コミュニティの信頼を築きながら各社の活動が現地の医療環境に好影響を与えるよう努力することで、エチオピアの ESG に取り組む必要があります。」</p> <p>地域出血性疾患患者団体 (エチオピア)</p>

最後に、PatientView から、製薬会社と ESG のアンケート調査にご協力いただいた 701 の患者団体に心より感謝申し上げます。

製薬会社が自社の ESG 活動に対する患者や患者団体の見解（および ESG 活動がこれらのステークホルダーに与える影響）を測定する手法を確立する上で、ESG ツールキットの分析をお役立ていただけることを願っています。

ESG ツールキットの詳細については、本プレスリリースの冒頭の連絡先までお問い合わせください。

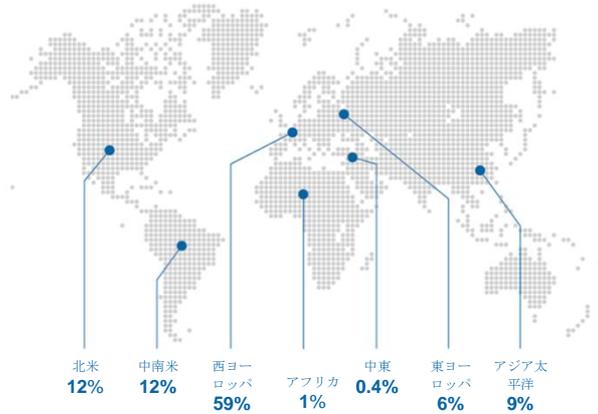
プレスリリースの終了

付録: 701 の回答患者団体の分析結果

回答患者団体の地域/全国本部

回答団体の割合と数 (N= 701)

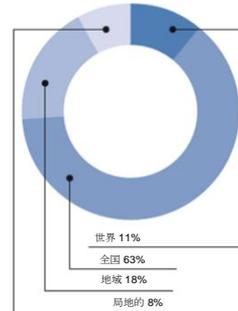
1 団体からは本部の所在地に関する回答がありませんでした



回答した患者団体の規模

回答患者団体の割合 (N=701)

1 団体からは規模に関する回答がありませんでした



回答した患者団体の専門分野 (2024年)

回答団体の数 (N= 701)

1つの回答患者団体が複数の専門分野にまたがる場合もあります

主な治療カテゴリー: 回答した患者団体の割合

カテゴリー	割合 (%)	カテゴリー	割合 (%)
アレルギー症状	1.4	医学研究	0.6
自己炎症性疾患	0.3	男性の健康	2.4
出血性疾患	2.3	メンタルヘルス	3.9
血液疾患	1.1	筋骨格疾患	0.7
骨疾患	1.9	神経疾患	13.1
がん	20.5	神経変性疾患	6.9
心血管疾患	1.1	神経筋疾患	1.9
介護者、家族、友人	1.0	高齢者	0.6
脳血管疾患	1.0	その他の自己免疫疾患	1.4
小児保健	1.9	その他の循環器疾患	0.1
慢性疾患 (全般)	0.6	その他の障害	0.1
内分泌疾患	5.5	患者アドボカシー	1.4
胃腸疾患	2.7	患者教育	0.9
健康全般	3.0	患者安全	0.1
婦人科疾患	0.7	希少疾病	20.1
難聴	0.3	リプロダクティブヘルス	0.3
心臓病	2.0	呼吸器疾患	6.9
肝炎	1.1	リウマチ性疾患	6.2
HIV/エイズ	4.9	皮膚疾患	3.9
免疫障害	0.9	脊椎疾患	0.1
感染症	0.7	移植	1.4
腎臓病	3.0	泌尿器疾患	0.9
学習障害	0.4	視覚障害	2.3
肝疾患	1.9	女性の健康	5.0